

アジアタレントカップとは/

6月3日、4日に鈴鹿サーキットで「ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP ROUND 3」が開催され、その中の「アジアタレントカップ第5・6戦」に Team SRS-Motoの中島元気がスポット参戦することとなりました。

※アジアタレントカップとはMotoGP主催者である「ドルナスポーツ」がアジアのライダー発掘プロジェクトとして2014年からスタートさせました。全参加者全く同じマシンを使用してレースを行うイコールコンディションのもと、世界での活躍を目指す22名の若手ライダーが全12戦で切磋琢磨しています。



6月2日～3日<フリー走行～予選>/予選7番手

アジアタレントカップのスケジュールは金曜日の午前と午後に30分間のフリー走行があり、土曜日は午前中に30分間の予選の後に、午後に第5戦が行われ、日曜日はウォームアップ走行なしでまた第6戦が行われる。慌ただしく鈴鹿入りした中島だが、落ち着いて各セッションをこなし、最初の走行は2'24.356で6番手、2本目は2'21"614で4番手とタイム、ポジションとも徐々に上げていった。迎えた予選は2'21.859で7番手。この結果、2つの決勝は3列目からスタートすることになった。



ThreeBond

6月3日～4日<第5/6戦決勝>/第5戦・8位、第6戦・3位

第5戦となる土曜日のレースはオープニングラップを7番手でクリア。この周をトップグループが2'22秒台なのに対し、中島は2'24"9のため、1周で既に2秒ほど離された。2周目のトップグループがタイムを2'21秒台へ上げたのに対し中島は22"0だったため、さらに離されてしまう。しかし5周目あたりから複数台によるトップ争いが激しくなってペースが2'21"台に落ち、対して中島は2'20"9とタイムを上げたため、2"9まで広がった差が2"3まで詰まり、翌周には1"4まで縮まった。しかし、トップグループが再びペースアップし、21秒前半から20秒台へ入れると中島のペースが21秒台から22秒台のため、差がまた広がり、最終的にはトップから3"9差の8位でチェッカーとなった。



第6戦となる日曜日のレースはうまくスタートで飛び出し、1周目を4位で戻ってくる。タイム的にはトップが2'22"2に対して中島は23"2。その差は0"9ほどあるが、まだまだ取り戻せる距離にいる。2周目にトップグループの中でいちばん速い2'21"1のペースの中島が130Rで2位に浮上。5周目の1コーナーではトップに出る走りを見せる。ところがその直後に後ろから複数台に抜かれ、6位まで順位を落としてしまうと、タイムもトップグループの2'21秒前半から中盤に対し、中島は21秒後半に落としてしまう。このため、セカンドグループの2番手、全体での8位を走る状況。最終ラップのシケインでトップグループの中で多重クラッシュが発生。セカンドグループの先頭にいた中島が初参戦3位表彰台でゴールすることとなった。



ThreeBond

中島 元気(なかじま げんき) /

ツインリンクもてぎでのテスト中、急に荷物をまとめて鈴鹿に移動すると言われ、ビックリしました。最初の走行前にプーチさんと青山さんに「目覚ましい活躍をすることよりも、まずは気持ちを落ち着かせて走り、良い経験になるようにしてほしい」と言っていたので、それでだいぶ精神的にリラックスできました。走り出しは少し戸惑いましたが、これも経験のうちと割り切り、冷静にセッションをこなすことに集中しました。最初のレースは集団に付いていくことで精一杯で、何もできませんでした。ブレーキングのセットアップが不十分だったことからそこの自由度がなく、レースが終わってしまった感じです。二つ目のレースはその部分を修正し、勝負できるようにはなったのですが、トップに出たあと複数台に抜かれ、鈴鹿でのレースということで自信があったことから、無理にもう一度前に出ようとしたのですがタイムを落とす抜き方をしてしまい、そこでトップグループから一気に離されてしまいました。タイムを落とさない抜き方など、レースの組み立てがまだまだだと痛感しました。このあたりは今後の全日本に活かしていきたいと思います。

<中島元気 プロフィール>

1999年静岡県出身、17歳。2011年SRS-J(現・鈴鹿サーキットレーシングスクールモト)入校、6年間の受講期間に様々な成長をし、2016年には鈴鹿サンデーロードレース J-GP3 (NATクラス) シリーズチャンピオンとSRS-Motoに新設されたスカラシップを獲得。今季は全日本チャンピオンを目標に、弊チーム「Team SRS-Moto」から全日本ロードレース全戦に参戦する。



アジアタレントカップアドバイザー 青山博一氏(あおやまひろし) /

今回鈴鹿でタレントカップが開催されるということで、ディレクターであるアルベルト・プーチが日本のライダーにチャンスを与えたいという思いから、鈴鹿レーシングスクールの優秀な卒業生である中島元気君に走ってもらうことになりました。もてぎで全日本の事前テストに参加しているところを急遽参戦することになり、慌ただしい思いをさせたのですが、レース2では表彰台にも上ってくれる走りを見せてくれて、良い経験になったと思います。慣れない環境に突然放り込まれながら、こちらがアドバイスしたとおり、全セッション転倒なく走ったことも高い評価に値します。若い子にチャンスを与えようというアジアタレントカップのコンセプト、プーチの想いをしっかり受け止め、結果に繋げてくれたことは私自身、同じ日本人としても嬉しく思います。ぜひ今回の経験を、今後のレースに繋げてくれればと期待しています。

<青山博一氏プロフィール>

1981年千葉県出身、35歳。2003年全日本ロードレースGP250クラスチャンピオン、翌2004年からロードレース世界選手権250cc(現在のMoto2クラス)に参戦し、2005年250ccクラス発優勝、2009年には同クラスにて世界チャンピオンを獲得。2010年から2014年まで世界選手権最高峰MotoGPクラスに参戦し、最高位は2011年スペインGPの4位。2015年よりホンダのMotoGPマシンのテストライダーとしてマシン開発に携わりながら、アジアタレントカップのアドバイザーとして若手育成にも力を注いでいる。



ThreeBond

